

皆親に供じて妻子なす成ゆし親の口体乃ち
終に先祖の統を絶人となすハ親をも又不孝の
罪人となるあり親を養ふも家の有無を念じ
がひ妻子何まで共は孝を尽し葬も産をやぶ
らざるなどの分有ゆし董永おおめてハ天質
の美に神明を感動するの篤孝なれといふべ
あやうなし其時所位の勢後世よりハ知る
しのおれ人乃手本よくなまじき事ハ世間
の人親の身と我身乃ち同じ思ふ者何ハ大孝
の聞へ有ゆし董永ハ我身よりハ親乃身と愛

せり妻子ハ人の欲する処にあらねども親を
養ふふさけり有と思ふといふに人乃
や川こと成事ハ人のあつむ処にあらざるを親
の葬の爲は一生休やりふなげうつゝか人
情のあつむる事やして大力量の人といふ
とも及くも此処に其志をハ愛すゆし其事ハ
学むるよし問王祥が後來の情欲の父母ハ事
るをハいふ云継母祥を不孝と云て父ハ讒
を愛を父ハ失て天性の思ふまじき實は
れ不孝なるやゆハ如此と思ふて継母の謬

を恨み繼母に孝行欲するふ何れにいつ
て孝行をいふ神にむといふとも祥は其非を
とがめばして生母よりなる故に孝行の故に母
生巢を欲すれども此願を叶へざれば不孝なを
と思ひて其得るを分別を以て至誠これ
を求む其志乃篤実な美稱するは言葉なり神
明の灵感をいふを尤に其志に受すべく慕む
し其事に習ひて嚴寒厚氷の時節の生巢
は富貴の人より夏秋よりくわかん事ハ
乏しく貧賤の者いづて俄に川沢を得るや

をあるに中ニハ海遠して海の生巢は天子
諸侯といつとも用ひ給ふに川沢は求む
のこゝ嚴寒は衣をくわ給てぐに火を用ひ
さねを居るに老るるをむくめて厚氷は
卧て大病を奈す此身祖父母より傳て
り親の口体の欲るるを生れ本をそれれ
る親は不孝の罪人と他人に少慈心ある
者ハ人乃いふまにと云事なり父母
の本心何を快く王祥は此を是非を
論じりて後世の人を教をよむをば後來

情欲の父母の事なる流ずべし問郭巨ハハハ
ん云一家の至味哉調て親はすくは夫婦ハ鹿
食と食するハ子の老に親ある孫を愛して食
哉と云ハ云哉これすハ親の志ハ本心慈仁
乃矣見よと云て云つる口体の嗜欲と云す
るは其のいたぐ親の本心ハ順從して其志を
養ひ至味なりと云ふ廉飯を供ずつたの親の
独味の事と云ふ子を教ふハ親の本心大に痛む
へし此事をよと云するは云はれぬと云ふ
全骸の精神親を愛敬するは云はれぬと云す

る妻又丈夫の心ハ順從して云ふくは天下古今
衆人の及ぶざる処ハ道理と云ふ事ハ學問ハ
よる時を易し郭巨が篤孝ハ老師大儒といへ
とも其十の一二を得ともくは神明の灵感ハ
其至誠純孝の心ハ云はれぬ事ハ云はれぬ學者も
又其跡を学ばずて郭巨の親あると云ふ不知乃
孝と云ふ初めなる事ハ孟宗ハ云冬月ハ
生笋ハ天子大樹といふとも得て不能雪中ハ
牡丹の花をみると云ふともくは云はれぬと云
も時なりと云ふ物なりと云ふ食すといふは無病の

人なまとも慎むに況や病人をや此願ひ道理よむより性命の本心よむに舜なをも求給ふ其時よむを求むつゝにといひまとも食すつゝまは道理の給ふ孟宗平日其家よ得る物をも親ふ奉し子弟のいづく成る人物をも求出して供するも其まじく常とまを筆をも願く成に時なまの物ハ毒氣のまといつてもこれハ孝感の神物なれハ良薬と成て病の愈たり至誠神を感する道理なれ

も平生も人力の及くま事共孟宗の誠よまて不意よ得るもの神助有へ至誠無心の孝よて天地を動く鬼神を感ぜしむるかどの事なれハ孟宗よ在てハ是非を論すべし其跡を学ふ時も性命父母失く情欲し事なれやまに事と云のま孝子とハ云づくして君子とはつづきまの有り君子なまこれ孝子も天下國家を治へるに舜ハ父母弟大悪人なる故に孝子の名有り灵感有り此舜の父母を董永王祥郭

臣孟宗の父母のをくなくめハ孝子の聞へ
もなく灵感も不可有君子の道德ふして孝無
事々ゆへなる他の聖賢り孝子のきことくわふ
所なり問いゝかるとり孝行の通用とす
云其位に其貧乏應じて家業を失ふに子孫を
不亡子の身善人と成て父母の心を安ずるを
通用とすゆ孝經の五等は皆さひも也ハ
学など記さる孝行ハをあらう上古の代の
事ニ末代は通しとく日本はワるるを
いふとあらは時勢人情大よりなれりなる

こゝれ上古ハ上質素ニ下ゆくかこゝハ男
女とも人のやりと成て出る者すゝか
これ故ニ子と婦と父母ニつゝふつゝより外
人なし世のあゝも無始より此ゝ如此も
のと思つゝ法と免てあるも非だ後世の上
おごる下るなり故ニ親子兄弟離散して
男女共ニ人乃やいことある者多し父母共ニ
分々相應ニ奴婢をつゝひて子婦をつゝ
此習久しき常とあれば人皆知此れと思へ
り今俄ニ婢妾を去るをけて子婦をつゝ

めんとするとも人情の習よて父母子婦共
安んじへく又婢妾なほ賤男賤女ハミつ
その多きれも衣食たゞに昼夜の家業せ
しく勞役すれも父母よつゝつよいとも
なほ二三人乃男女何れも其業のつと
められも私用よつゝひびきたる朝夕の
心術孝慈の本を不失て一家和睦父母順
あれば今の世の至孝成て前漢の文帝宋の
代の山谷こゝろ天質の美と孝行の一事よを
めてハ生知安行なりつと成てなほありあ

を天子の身として三つゝ母よつゝ富貴
して婢妾れ事を手づゝなほり此人づゝに
久の正といひて下つゝれ者のおと
れをけまふも不実にして跡残なほ
孝子れ狂言とならんとも恐る至善を期して
其為よふづゝ



